

# 「雑草魂」 第 5 0 号

2021.1.12(火) 編集責任者：橋山 直記

## 作文と小論文

通常の学科試験からは判断できない力（物事を多面的にとらえる力や表現力など）を見るために、作文や小論文の試験がある。まずはじめに、作文と小論文の違いについて確認しておこう。

作文…自分の体験をもとに自分自身について伝える。会話文などを使い、いきいきとした文章になるよう工夫する。

小論文…テーマについて自分の意見をはっきりと述べる。読み手を納得させるような説得力のある文章が求められる。

自分の受験する学校の出題傾向を確認し、対応できるようにしておこう！

## ☆小論文 Part1☆

今日は、小論文の書き方について簡単に説明する。ポイントは次のとおりである。

- ①文章の語尾は統一させる。  
「だ」「である」調なのか「です」「ます」調なのか（小論文なら）  
※小論文なら「だ」「である」
- ②漢字は正確に書く。
- ③書き言葉で書く。
- ④流行り言葉は使わない。
- ⑤幼稚な言い方はしない。
- ⑥感情的な表現はしない。
- ⑦マス目のある用紙の場合、原稿用紙の書き方を守る。

感想文はテーマについて自分が感じたことをそのまま書けば良いが、小論文はテーマについて、自分が出した「結論」、そしてその結論に至った「理由」を筋道を立てて書く必要がある。論理的に文章を書くとは、「相手が理解できるように、筋道を立てて分かりやすく表現する」ことである。

例えば、下のような文は筋道が立ってなく、繋がっていない。

- ①お昼ごはんは駅前の〇〇屋でカレーが食べたいです。  
↓
- ②今年の高校野球には、母校が出場しています。

しかし、次の文が加わったらどうだろうか？

- ①お昼ごはんは駅前の〇〇屋でカレーが食べたいです。  
↓
- ②今年の高校野球には、母校が出場しています。  
↓
- ③〇〇屋のテレビで、カレーを食べながら高校野球を観戦しようと思います。

そう。③の文が加わって、初めて②の文の意味が生きてくるのである。

実は、この一文一文がどのように繋がっていくか、一文一文の関係、一文と次の文との繋がり、これを考えて組み立てて行くことが、文章を書くということである。一文一文が、それぞれの段落の中でそれぞれの働きをし、それが文章全体の流れをつくっている、それが論理的文章なのだ。

小論文の段落は、基本的に『中心文』『展開部』『結びの文』の3つで構成される。

○中心文（結論）…段落を構成する一文一文には働きがある。その働きの中で、最も重要な意味を表す文が中心文である。

○支持文／展開部…中心文の内容を詳しく説明したり、補足説明をしたり、例示したりする文である。いくつもの文を使って、中心文を説明する展開部分にあたり。ここでは、自分のだした結論の理由を解りやすく書こう。また、自分の体験談などを書くと、ぐっと読みやすくなる。

○結びの文 …第二の中心文。最初に中心文を書き、展開部でその中心文の内容を書き、最後にまとめる形に仕上げる。

### 例文

**中学生は携帯電話を持つべきではない。**

インターネットや携帯電話を通じて、未成年者が犯罪に巻き込まれるケースは増加の一途をたどり、また、非行や学業不振の遠因にもなっているからである。さまざまな情報を携帯電話を通じて手軽に入手できる現在の情報化社会は、便利さが増す一方で、無防備な子どもたちを有害情報にさらす結果となっている。携帯電話を巡る未成年者の問題行動は、出会い系サイトの利用、無計画な電話利用による浪費、授業中のメール交換等学習面への障害、また、犯罪や暴力行為のための連絡等、多岐にわたっている。新聞報道によると、非行中学生の携帯電話所有率は6割強とも、7割強ともいわれ、彼らの携帯電話への強い依存傾向が指摘されている。

**中学生の携帯電話所有は、百害あって一利なしといえよう。**

この段落は、全部で6つの文（下の①～⑥）で構成されている。1つの中心文（①）、4つの支持文（②～⑤）、そして、1つの結び文（⑥中心文）である。

- ① 中学生は携帯電話を持つべきではない。（書き出しの中心文）
  - ② インターネットや携帯電話を通じて、未成年者が犯罪に巻き込まれるケースは増加の一途をたどり、また、非行や学業不振の遠因にもなっているからである。
  - ③ さまざまな情報を携帯電話を通じて手軽に入手できる現在の情報化社会は、便利さが増す一方で、無防備な子どもたちを有害情報にさらす結果となっている。
  - ④ 携帯電話を巡る未成年者の問題行動は、出会い系サイトの利用、無計画な電話利用による浪費、授業中のメール交換等学習面への障害、また、犯罪や暴力行為のための連絡等、多岐にわたっている。
  - ⑤ 新聞報道によると、非行中学生の携帯電話所有率は6割強とも、7割強ともいわれ、彼らの携帯電話への強い依存傾向が指摘されている。
  - ⑥ 中学生の携帯電話所有は、百害あって一利なしといえよう。（結びの中心文）
- これが段落の流れ、構成だ。そして、この段落の①と⑥の文を合わせると、

**中学生は携帯電話を持つべきではない。中学生の携帯電話所有は、百害あって一利なしといえよう。**

小論文では、他人を説得させるために、客観性が必要になってくる。そのため、予想される反論を述べることもある。それについては、次回説明しよう。